

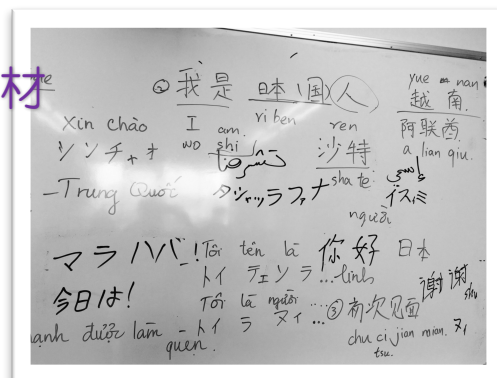
## 第 47 回言語文化教育研究学会月例会

### 都市空間はどのように言語教育の場・素材

となりうるのか？

一言語景観を教材とした英語教育の実践から

話題提供者: 吉田孝子さん(横浜商科大学)



本月例会では**都市空間**がどのように**言語教育の場・素材**となりうるのか考えていきたい。

近年、街の**言語景観** (linguistic landscapes) に関する研究が盛んに行なわれている。これらの研究

では街にあふれる多言語標識 (看板や公的な警告や注意書きなど) やグラフィティをデータとして、言語政策・言語イデオロギーがどのように空間に表象されているのかが明らかにされてきた。この**言語景観**は社会言語学の研究にとどまらず、新たな**言語教育の素材**としても捉えられつつある。本月例会の話題提供者である吉田も、勤務校の横浜商科大学1年生を対象とした英語の授業で、街の**言語景観**を1つの**学習素材**として扱った。その理由は、英語が学習者の生活空間と切り離され、日本の「外」にあるものという位置付けに疑問を感じていたからである。

本月例会では、まず Malinowski (2015)による**言語景観**を**学習教材**として扱う際の空間の捉え方を説明し、吉田の実践と学生たちの意識の変化を紹介します。それから、参加者の方々とともに、以下の2点について考えていきたいと思います。

- (1) **言語景観**を**教材**に どのような教育実践がありうるのか？
- (2) 実践を行う上で、教員はどのような点に配慮しなければならないのか？

英語教育関係者に限らず、留学生を対象とした日本語教師の方々、地域の日本語教室に携わっているの方々、外国につながる生徒を支援されているの方々などにも広く参加して頂き、私たちが生活している**都市空間**がいかに言語教育・学習の場となりうるのか、様々な立場からご意見をいただきたいと思います。

(参考文献) Malinowski, D. (2015) Opening spaces of learning in the linguistic landscape Linguistic landscape: An International Journal. 1(1).95-113.

日時: **11** 月 **26** 日(土) **14:00~16:00**

会場: 早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 **615** 教室

参加費: 無料 予約: 不要(会場に直接お越しください)

お問い合わせ: [monthly@alce.jp](mailto:monthly@alce.jp) (月例会委員会事務局)